

横浜・八景島シーパラダイス

誕生後から成魚まで成長の過程がひと目でわかる！

「ダンゴウオ」新展示

『横浜・八景島シーパラダイス』の水族館「アクアミュージアム」では、2026年6月29日（月）より、当施設で誕生した「ダンゴウオ」の成長過程がひと目でわかる展示を行っております。

本展示では、当施設で誕生した「誕生後数週間」「誕生後数ヶ月」「成魚」という3つの異なる成長段階のダンゴウオを同時に観察いただくことができます。

ダンゴウオは、成長に合わせてその姿を大きく変化させます。誕生後、体長がわずか数ミリサイズの時期は、頭部に通称「天使の輪」と呼ばれるリング状の白い線がある可愛らしい姿をしていますが、成長するにつれて親と同じ姿に変化していきます。

今後においても当施設では、ダンゴウオをはじめとするさまざまな生きものの魅力や生態などについて知っていただく機会を提供するとともに、水族館の役割の一つである「種の保存」への取り組みとして、計画的な繁殖活動に取り組んでまいります。



<この資料に関する報道関係各位のお問合せ>

『横浜・八景島シーパラダイス』 広報担当／長谷川・武井

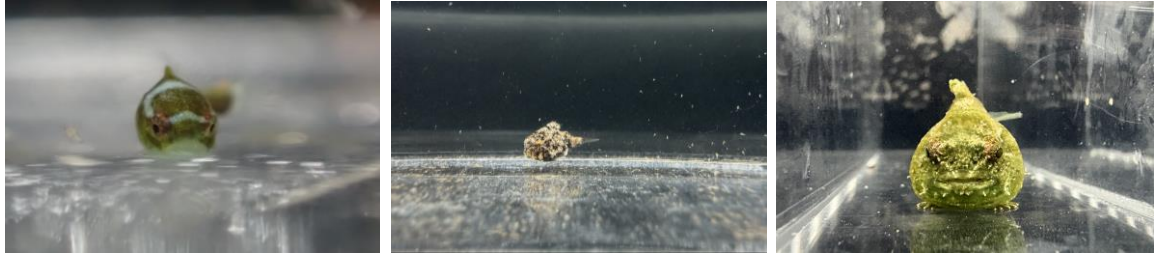
TEL 045-788-9631 FAX 045-788-9735

mail : hkj-kouhou@seibugroup.jp

■ダンゴウオ新展示

本展示では、アクアミュージアム 1F LABO3 「海で進化した動物たち」にて、当施設で誕生した「誕生後数週間」「誕生後数ヶ月」「成魚」という3つの異なる成長段階のダンゴウオを同時に観察いただくことができます。

ダンゴウオは、成長に合わせてその姿を大きく変化させます。誕生後、体長がわずかに数ミリサイズの時期は、頭部に通称「天使の輪」と呼ばれるリング状の白い線がある可愛らしい姿をしていますが、成長するにつれて親と同じ姿に変化していきます。



誕生後数週間

誕生後数ヶ月

成魚

■ダンゴウオについて

ダンゴウオは、日本沿岸の浅い岩礁域や海藻の間などに生息するカサゴ目ダンゴウオ科の魚です。愛嬌のある丸い体つきが特徴で、腹ビレが変化してできた強力な吸盤を持ち、海藻や岩肌にピタッとくっつくことができます。体色は生息場所により赤、緑、褐色などさまざまな色を呈します。冬は繁殖のため浅い岩礁域に姿を現し、大きな目と愛嬌ある体形はダイバーや多くの方々に親しまれています。

■ダンゴウオの繁殖

当施設では、水族館の役割の一つである「種の保存」への取り組みとして、2026年よりダンゴウオの繁殖に取り組んでいます。

ダンゴウオは、メスが産んだ卵をオスが守り、海水温が低下する冬に繁殖期が始まります。繁殖期を迎えたオスは自然界ではフジツボや巻貝の中を縄張りにし、メスを呼び込みます。ペアリングが上手くいくと、メスはその中に卵を産み付け、オスは卵が孵化するまで守り続けます。飼育下ではフジツボや貝殻の代わりに、塩ビ管を繁殖床として設置し、繁殖スペースを確保しています。

メスが産卵した卵は、オスが守りながら世話をし、数週間から約1ヶ月後に体長約3ミリの稚魚が誕生します。稚魚の頭部には「天使の輪」とも呼ばれる白い輪模様がありますが、およそ2週間で消え、成長するにつれて親と同じ姿に変化していきます。



親が卵を塩ビ管の中で守っている様子
赤色の粒が卵



体長約3ミリの稚魚たち

<ダンゴウオ新展示>

展示場所：アクアミュージアム 1F LABO3 「海で進化した動物たち」

<ダンゴウオ>

分類：カサゴ目ダンゴウオ科

英名：Japanese lumpsucker

学名：*Eumicrotremus awae*